

会議名	第3回八名地域計画分科会		公開
日時	令和4年7月8日(金) 午後7時30分～午後8時00分	場所	一鍬田公民館 2階 会議室
出席者	(委員) 小林勝則、井上こずえ、滝川多嘉子、細田圭介		
	(事務局) 八名自治振興事務所：近藤所長、近藤主任		
欠席者	(委員) 山本いづみ	傍聴者	なし
配布資料	次第、計画提案(事業化)にむけての作業シート、新城地域自治区 地区防災計画、「健やかに暮らしたい」グループ討議録		

議題・議事・発言等(要点記録)

1 開会

分科会長より挨拶を行った。

2 議事

(1) 地域計画の資料編について

既存の地域計画に載せた資料は、危機意識を持ってもらえるよう八名地域における人口の減少や少子高齢化の推移等を資料とした経緯がある。

今回、地域計画の見直しを行うにあたり、どういった資料を載せるのかを次回の地域計画分科会にて意見をいただきたい。

(2) 実施計画の見直しについて

7月1日に開催した第4回八名地域協議会での各グループにおける話し合いの内容について、各グループリーダーより説明をし、共通認識とした。

併せて、残り3回の八名地域協議会で、令和5年度八名地域自治区予算事業計画案を作成すると共に、八名地域計画の実施計画について見直しを行うことについて確認をした。

(安心グループ)

前回までに話し合った意見等を載せた作業シートを基に話し合いを行った。

防犯カメラについては、あったら良いといった意見であり、どうしても必要というものではなかった。現状、市の補助金はあるが、設置後の管理は地元で行う必要があり、

誰が管理をするのかといった課題もある。また事件が起こった際には、警察からの情報提供には応じなければならず、迅速な対応が求められる。東新町や本町で設置をしており、実際に事件解決に役立ったことはあるが、家の敷地内が写るなど、プライバシーの関係で設置にあたってはいろいろと配慮が必要となる。

安全灯については、LED化した安全灯の保守に対する補助についてです。安全灯のLED交換に要する費用には1棟あたり、2万円ほど掛かると聞く。市役所内でも調整をしている話は聞いているが、先駆けて保守に対する補助金を自治区予算で考えたい。地域自治区予算で上乗せ補助をしてから8年が経過し、不具合が生じかねないため、検討を進めたい。

また、桜淵公園の芝生広場や黒田地区のボートゼロ付近においても防犯灯が少なく、夜に歩くには怖いといった意見が出た。特にボートゼロ付近については、暗くて危険と言うことから、通学路となっている中学生は徒歩ではなく自転車で通学をしている。

AEDについては、AEDを増やすよりも救急車を呼んだ方が早い。管理は誰がするのか。AEDを増やすよりも、救急処置できる人を増やす方が良いという意見があり、救命講習会を開いてはどうかという意見に至った。対象を防災専門員とするのか住民とするのかを検討していく。なお、講師としては、赤十字にお願いをして開催することはできると思う。

イベント時に貸し出せるAEDについても意見はあったが、本当に必要としているのか。レンタル費用の問題。どこで管理をするのか。などの課題があり、単発的なイベントであれば、消防署で貸し出しもできるため、地域自治区予算での検討は不要であるという話に至った。

産廃については、5月30日に臭気の規定数値を超えたことにより、市から産廃業者に対し、7月1日までに報告書を提出するよう指導が入ったとのこと。報告内容については不明であるが、区長を通じて地元への報告があるとのこと。課題が大きいので、協議会の範疇でできることは限られており、それ以上の話はいりませんでした。

Sバスについては、八名地域の交通を考える会にて検討をしており、進捗状況について7月26日の区長会。また、7月28日の地域協議会にて報告を行うとのことでした。

防災については、時間が足りずしっかりと話をすることができなかったが、市の防災対策課では、災害時の連絡手段として、インターネット回線を利用した方法が比較的繋がりやすいといった話があった。

今後の調整を進めて行く上で、行政区との連携は必須であるという話でグループワークを終えた。

(健やかグループ)

健やかに暮らしたいという目的を達成するための具体的な事業を提案するという目標を確認し、議論を進めた。なぜ取り組むのかについては、もう少し議論し、馴染みのある文章にしたいと思う。

前回の議論内容を振り返りながら、意見交換を行った。これまで高齢者を対象とした施策が中心となっており、そこを切り口に議論を行った。議論では、高齢者が元気だと子供世代は安心できるといった一方で、高齢者が元気だと若者が活躍できないため、引退するか、一緒に動ける活動を作らないといけないという話が出た。

また、情報伝達について、地元の付き合いによる情報伝達では若い世代には伝わらない。ITを活用した情報伝達であれば、若い世代だけでなく、広い世代に伝わるようになっていくのではないかと話した。

若者が地域活動へ参加するためには、共通のテーマが必要である。場所は各行政区の集会施設で良いと考えるが、こちらから呼びかけられると良い。場所を作っても、世話人がいないと難しいのではないかという話から、共育の有償コーディネーターだけでなく、他の分野についても有償コーディネーターを検討してはどうかという話があった。

他にも、健康促進のために散歩道の整備といった話。また、JA等が行っている移動販売車の周知ができていないといった話が出た。移動販売車については、地域活動支援員からもプラスアルファの取り組みがあると良いといったアドバイスがあった。

第2回八名地域協議会では、未就園児が話題となった。過去には八名こども園に「こども広場（すくすく）」があったが、子育て支援センターが千郷から城北に移った際に、全市一か所となり、八名こども園も廃止となった。グループ内の委員が城北子育てセンターに行った際に、八名地域の人もいたが、他の地域住民でも利用できるといった情報が対象者全員に伝わっているかは疑問とのことでした。去年、一昨年は、八名のJAプラザにて未就園児とその親が集まり、交流をしていた。その方々からは、地元「こども広場」が欲しいとのことでした。全市で1か所とした経緯等は不明であるが、八名こども園に馴染めるようにしたいという考えを持った人が多いのであれば、地域自治区予算で場所と人の確保等、検討を進めたいと思う。

高齢者については、病気に関する正しい情報を必要としているが、病気についての話を聞ける機会は少ない。また、病気等により、外出が難しい人に対してもSNS等を利用した講習会等があると良いという話であった。

(健やかグループ)

スマートICを切り口として話し合いを進めており、現状では永住を目指すのは難しいため、集客を優先して話を進めている。観光農園やスケートボード施設などをスマートIC絡みで考えてはどうかという話が出た。また、五葉うどんが八名の名物となると良いといった話が出た。地域活動支援員の話では、スマートIC予定地周辺には土地利用に制約があり課題は多いとのことであるが、もっくる新城のように直売場や物産、観光情報の収集等が出来るような施設があると良い。併せて、もっくる新城にはETC2.0がついており、1時間は再進入が可能となり人気となっているので、同様にETC2.0を設置してもらいたいという話であった。今年度は、観光マップや歴史マップを作成するにあたっての調査業務をしたいという話でグループワークを終えた。

3 その他

4 閉会

次回、第4回八名地域計画分科会開催について、令和4年8月4日（木）19時30分開催とした。